

現在、婦人科では、「当科で治療がおこなわれた卵巣癌の予後因子の後方視的検討」に関する研究を行っています。今後の診断・治療・管理に役立てることを目的に、当院で2007～2017年に治療・管理を受けた卵巣癌の患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「当科で治療がおこなわれた卵巣癌の予後因子の後方視的検討」

2. 研究の意義・目的

本研究の目的は、当科で2000年から2017年までに治療がおこなわれた卵巣癌575例を対象に臨床病理学的な予後に関わる因子を明らかにすることです。私たちが2017年に発表した治療成績は、進行期3・4期の5年生存率は、2000年から2007年までは38%でしたが、2008年から2012年では55.5%と上昇しました。さらに2017年までの患者さんの数を増やすことで新たな予後予測因を抽出することで、更なる治療成績の向上を目指します。

3. 研究の方法

2000年～2017年に千葉大学医学部附属病院婦人科で卵巣癌で術前に抗がん剤治療がおこなわれた後に手術をおこなった575人の患者さんを対象にしています。各患者さんの年齢、病気の広がり、腫瘍マーカー、おこなった手術、手術標本でのがんの残存の有無と部位、再発・生存の期間などをカルテ（含む電子カルテ）から調査し、まとめます。研究内容は、学会・学術誌に公表予定です。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化を行い研究に用います。個人情報が外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学大学院医学研究院生殖医学

千葉大学医学部附属病院婦人科

本件のお問合せ先 : 千葉大学大学院医学研究院生殖医学

医師 楯 真一

043(226)2121 内線 5314

